

ほめあげる機能をもつ文

——ほめあげ文について——

笹 井 香

1. はじめに

必ずしもごく日常的にというわけではないが、ある種の場面・文脈では次の例文⁽¹⁾1-4「ヨッ 節約上手!!」「よっ 果報ものっ」「イヨッ!!一流大学受験生!!」「よっ 幸せ者お」のような文が観察される。

- 1 (恋人の風が一度食べた豆苗の根を捨てずに水耕栽培しているのを指して) 慎二「なんつったっけ この緑のかわいいの」風「豆苗」慎二「来るたび育ててね？」風「だって水につけとけば2・3回は伸びて食べられるんだもん」慎二「ヨッ 節約上手!!」風「ご機嫌だね 慎二 飲んできたの？」『風』1巻 p.16
- 2 (幼い娘の遊び友達は全員男の子であることに気づき、娘に向かって) 母「よっ／にくいよ このっ⁽²⁾／果報ものっ」『ママ』p.101 (笹井香 2017: 28 の例文 35 に相当)
- 3 (沢田が一人黙々と勉強している姿を見て話しかける) 久美子「おお！さすがに沢田はやってるな！／イヨッ!!一流大学受験生!!」『極』15巻 p.195 (笹井 2017: 28 の例文 38 に相当)
- 4 (テレビ番組のナレーション。画面には直立するレッサーパンダ風太の映像が流れている。風太に嫁と子供ができたことを受けて)「よっ 幸せ者お」『大賞』(笹井 2017: 28 の例文 39 に相当)

以上のような文に観察される「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」

「幸せ者」は、その言語場において話し手が聞き手に下した価値評価が名詞に表されたものだと考えられる。例文1の「節約上手」であれば、慎二(=話し手)が、一度食べた豆苗の根を水耕栽培してあと2~3回は食べようとする風(=聞き手)に下した価値評価が名詞「節約上手」として表されている。例文2の「果報もの」であれば、いつも一緒に遊んでいるのは全員男の子で「もてもての状態」とも言える娘に下した価値評価が名詞「果報もの」に表されている。このような文に表されるのはポジティブで良い価値評価である。(これについては2節で詳しく述べる。)

そして、これらの名詞は常に呼掛詞⁽³⁾「よっ(ヨッ)/いよっ(イヨッ)」とともに文として運用され、文末には「! (!!)」 「っ(促音)」 「ー(長音)」が観察される。この「! (!!)」 「っ(促音)」 「ー(長音)」は「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」「幸せ者」が単なる語ではなく、何らかの発話行為のもとで発話された文であることを示している。したがって、上記例文1-4のような文は、

【よっ(ヨッ)/いよっ(イヨッ)+名詞⁽⁴⁾(「!」, 促音化または長音化)】
という、定型化のもとで文として運用されていると考えられるのである⁽⁵⁾。

例文1-4のような文は聞き手を「ほめあげる機能」(笹井香2017: 28-29)をもつと考えられ、このような文を発話することが、聞き手を「ほめあげる」という行為そのものになるのである。(文の機能については4節で詳しく述べる。)そこで、論を進めるにあたり、これ以降、上記の定型化のもとで運用されている例文1-4「ヨッ 節約上手!!」のような文を「ほめあげ文」と呼び、上記名詞を「ほめあげ名詞」と仮に呼んでおく。

2. レッテルとほめあげ名詞

笹井(2017)において「レッテル貼り文」という文の存在について論じた。レッテル貼り文とは「ばか者!」「恥知らず!」「嘘つき!」のような

体言を骨子とする文で、「悪態をつくときに用いられ、話し手の対象への価値評価にともなう怒りや呆れ、嘲り、蔑み、嫌悪、侮蔑などといった情意を表出」する「表出文の一種」(p.21)である。その言語場において「話し手が対象に下した価値評価が名詞という形式に表され、文が構成」(p.20)されている。下のレッテル貼り文の例文5「ばか者！」であれば、「部下が仕事中にもかかわらず PC で遊んでいること」を「根拠」として話し手がレッテルを貼る対象に下した価値評価が「ばか者」という名詞に表され、レッテル貼り文として運用されている (p.19)。したがって、「レッテル貼り文を発話することがいわゆる「レッテルを貼る」という行為そのもの」(p.30【表 1】)になるのである。なお、「このばか者！」のように、「この」「あの」「太郎の」のようなレッテルを貼る対象を明示する形式を含むレッテル貼り文も観察されるが、話し手が対象に下した価値評価である名詞「ばか者」にあたる部分のみを「レッテル」と呼ぶ (p.20)。

- 5 (部下が仕事中にもかかわらず PC で遊んでいるのを見つけて) 少佐
「仕事のふりして遊ぶな ばか者!」『愛』20 巻 p.40 (笹井 2017:
19 の例文 3 に相当)

このように、レッテル貼り文のレッテルと、ほめあげ名詞「節約上手」「果報もの」などは、その言語場において話し手がレッテルを貼る、或いは、ほめあげる対象に下した価値評価が名詞に表され、そのまま文として運用されているという特徴が一致している。

ただし、レッテル貼り文とほめあげ文とでは、名詞で示される話し手の価値評価が正反対である。レッテルは「ばか者」「親不孝者」「愚か者」「無礼者」「ばかやろう」「うそつき」「へそ曲がり」「サディスト」などで、ネガティブな価値評価に限られている (笹井 2017:29)。これとは対照的に、ほめあげ名詞は「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」「幸せ者」などで、ポジティブで良い価値評価を表している。このように、名詞で示される価値評価は正反対なのである。

3. 呼び掛け文の一種としてのほめあげ文

ほめあげ文は、レッテル貼り文と形式的に共通する特徴⁽⁶⁾があり（形式については5節と6節で詳しく述べる）、「あたかも良い価値評価を下してそれをレッテルとして対象に貼り付け、ほめあげる機能をもつレッテル貼り文である」（笹井 2017: 28）かのように見える。そのため、笹井（2017: 28-29）では、ほめあげ文がレッテル貼り文ではないことを指摘するため、「相手をほめあげる機能をもつ体言を骨子とする文」として、本稿にいうほめあげ文について言及した。即ち、相手を賞賛し、ほめあげ、いわゆる「よいしょ」する表現で、場合によっては相手へのからかいや皮肉、揶揄を含んだ表現となっていること、「レッテル貼り文と同じ形式を備えて」⁽⁷⁾おりレッテル貼り文であるかのようにだが、相手に聞かせることを目的として発話されているため、「表出文の一種としてのレッテル貼り文とは異な」っておりレッテル貼り文ではないこと、さらに、「呼び掛け文の一種だと考える」ことなどを指摘した。

ほめあげ文がレッテル貼り文とは異なる機能をもつことは、以下の引用のとおり、それぞれの言語場の違いに端的に示されている。

例文 35-39⁽⁸⁾下線部のような文がレッテル貼り文と異なるのは、これらが発話されるとき、言われた相手はその言語場に聞き手として存在しなければならないということである。（中略）つまり、例文 35-39 のような文は相手に聞かせることを目的として発話されているのである。例文 35-39 波線部「いよっ（イヨッ）」或いは「よっ」という呼び掛け文に用いられる感動詞と共に発話されていることからそのことがうかがえる。一方、2節で述べたように、レッテル貼り文は、発話されるとき言語場にレッテルを貼り付ける対象が必ずしも存在する必要はなく、また、対象への伝達を目的とする文でもない。このように、対象が言語場に聞き手として存在する必要があるかどうかは、文

の成立に関わる要件であり、なおかつ、対象への働きかけを文の機能としてもつかどうかという、文の担う機能にも関わる要件である。したがって、例文 35-39 に挙げる文はレッテル貼り文とは異なる文だと考える。(笹井 2017: 28-29)

即ち、表出文であるレッテル貼り文は、レッテルを貼る対象が言語場に存在する必要がないのに対して、ほめあげ文は、ほめあげる対象が聞き手として言語場に存在する必要がある。つまり、ほめあげ文はレッテル貼り文のような表出文⁹⁾ではなく、聞き手に聞かせることを目的とした発話であり、ほめあげる対象が聞き手として存在する言語場でなければ文として機能しないのである。

この、ほめあげ文の言語場の特徴は、呼び掛け文の言語場の特徴と一致する。呼び掛け文も「呼び掛けた対象が聞き手として言語場に存在していることを前提として発話されて」(笹井香 2015: 17) いるという特徴をもっている。つまり、形式としてはレッテル貼り文と共通しながら、それが運用される文としては呼び掛け文と同様の言語場で成立しており、呼び掛け文の一種といえることができる。しかし、呼び掛け文が注意喚起を主たる機能とするのに対して、ほめあげ文はこれに加えて聞き手を「ほめあげる」という固有の機能をもっていると考えられる。そこで、注意喚起を主たる機能とする呼び掛け文を「単純な呼び掛け文」と呼ぶとすれば、次のように整理できる。

呼び掛け文 { 単純な呼び掛け文
ほめあげ文

本稿は、笹井 (2017) では立ち入った考察がなされなかったほめあげ文について、以下に詳しく論じる。

4. ほめあげ文の機能と言語場

4-1 ほめあげ文の機能と言語場

1 節で述べたように、ほめあげ文は「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「！」、促音化または長音化）」という定型化のもとで文として運用され、聞き手に聞かせることを目的として発話される。聞き手に聞かせるのは、1 節の例文 1-4 であれば、話し手が聞き手に下したポジティブで良い価値評価「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」「幸せ者」というほめあげ名詞である。したがって、ほめあげ文は聞き手を「ほめあげる機能」（笹井 2017: 28）をもった文ということができるのである。

文の機能を「ほめる」ではなく「ほめあげる」としたのは、既に述べたように、ほめあげ文が必ずしも純粋に賞賛する表現となっているわけではなく、場合によっては聞き手へのからかいや皮肉、揶揄を含んだ表現となっているからである。例えば、例文 6「よっ！」「1 位」!!」は「1 位」という一見ポジティブで良い価値評価を聞き手に聞かせてはいるが、明らかに意地悪で発話されている。

- 6 （新学期前日、クラス全員の序列が記してある差出人不明の怪しいメール「2-D 序列」がクラス全員に届いた。1 位は姫山椿だった。何を序列化したものは不明だったので憶測が飛び交い、新学期初日の教室は不穏な空気が漂う。そんな中、自己紹介が行われている）教師「…じゃあ次姫山」姫山「はい！」男子生徒「よっ！「1 位」!!」（クラスがいやな雰囲気になり、ざわつく）姫山「……………」教師「…おい」『公開』1 巻 p.21

このように露骨な悪意が表現されることがあったり、聞き手が賞賛に値する状況にあること（或いは、ほめられるべき性質をもっていること）は認識していても、それを認めたくない話し手の感情が感じられる表現となっている場合もある。また、ことさらわざとらしく「よいしょ」することで聞き

手をからかっていたり、場合によっては皮肉であったりするなど、揶揄する表現となっていることもあるからである。

浜田麻里(1988:77-80)に「ほめ言葉」についての言及がある。「悪口」を「対象の持つマイナス面に言及するか、あるいは、マイナスの評価を付し、対象を攻撃する言語行動」と定義し、「悪口」と「対立する言語行動」を「ほめ言葉」と捉えている。そして「ほめ言葉」を「対象の持つプラス面に言及するか、あるいは、プラスの評価を付し、対象を持ち上げる言語行動」と定義し、「悪口」と「ほめ言葉」の機能や、それぞれが発話される言語場について以下のように述べる。

悪口とほめ言葉は、評価の方向性よりも、もっと根本的な点で異なっている。それは、ほめ言葉は聞き手の存在を前提とするが、悪口は聞き手がいなくても成立するという点である。だれも聞いてくれる人がいなくても、独語でも、心内語でも「悪口」は言えるのである。(中略) ほめ言葉はどうか。ほめ言葉の場合には聞き手のいないような場面ではほめ言葉を言う、というのは考えられない。誰も聞いていないときに「あの人、頭がいいなあ。」と言ったら、それはほめていることにはならないのではないか。「感嘆」とか「詠嘆」と呼ぶべきではないだろうか。ほめ言葉では、話し手自身以外の誰かに聞いてもらうことが必要なのである。一方、悪口は、発話することに大きな意味がある。聞いてもらうことは副次的なのである。極論すれば、悪口は聞き手の存在を必ずしも必要としない。このことは、悪口とほめ言葉の決定的な違いである。悪口にのみ聞き手を前提としない場合があることには、悪口の「反社会性」という性質が大きく関与している。(中略) 反対にほめ言葉では聞く者がいることによって、話し手が何らかの利益を期待するのが普通である。だから、聞き手が存在しないと、ほめ言葉は機能しない。(浜田 1988:79-80)

ほめあげ文は、上記引用にいう純粋な「ほめ言葉」ではないが、この指摘はレッテル貼り文とほめあげ文の機能に関わるものであり、重要な指摘で

ある。本稿も、ネガティブな価値評価を表すレッテル貼り文は表出文として機能し、言語場にレッテルを貼る対象が存在する必要がないのに対し、ポジティブで良い価値評価を表すほめあげ文は、それを敢えて聞かせることがほめあげるということになるのだから、言語場に聞き手（＝ほめあげる対象）が存在しなければならないとした。テレビ番組で観察されるほめあげ文が「声を張って」発話されていることから、敢えてそれを聞かせていることがうかがえるだろう。ほめあげ文を発話することで、「ほめあげる」という行為をほめあげる対象の眼前でやって見せているのである。

4-2 「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」の機能と言語場

3節で述べたとおり、ほめあげ文と呼び掛け文の言語場の特徴は一致しており、言語場にほめあげる、あるいは呼び掛ける対象が聞き手として存在していなければならない。

呼び掛け文が「呼び掛けた対象に働きかけ、注意を喚起」（笹井 2015 : 14）して、言語場に聞き手として引き入れる⁽¹⁰⁾ことができるのは「呼び掛け文として運用される名詞は、呼び掛けた対象の注意を喚起しうるものでなければならない、それが発話される言語場においては、話し手から見た関係性において、特定の個人を指示することができるという特徴をもって」いる」（笹井 2015 : 17）からである。

しかし、ほめあげ文に観察される名詞は例文 1-4、6 が示すように「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」「幸せ者」「1 位」のような名詞で、「節約が上手な人」「果報がある人」などの属性をもつ人全般を指し、ある特定の個人を指定するものではない。したがって、ほめあげ文が「節約上手!!」「果報ものっ」だけであれば、ほめあげ文として成立しない。つまり、呼掛詞「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」を常にともなって運用されることによって、ほめあげ文として成立するのである。

大鹿薫久（1988 : 98）は、呼掛詞「やあ」「よう」「おい」などについて「話し手（主者）が対象を聞き手として言語場に引き入れようとする」と

述べている。「よう」の形態的に変化したものが「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」で、ほめあげ文においては「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」がほめあげる対象を聞き手として言語場に引き入れる機能を担っているのである⁽¹¹⁾。ただし、ほめあげ文に観察されるのは「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」という形式のみで、「よう」や他の呼掛詞が観察されることはないということに注意する必要がある。

なお、例文7「ヨッ 節約上手!!」において、ほめあげ文が発話される前から、慎二(=話し手)と風(=ほめあげる対象であり聞き手)との言語場はすでに成立しているが、慎二は「ヨッ」を発話している。

- 7 (恋人の風が一度食べた豆苗の根を捨てずに水耕栽培しているのを指して) 慎二「なんつったっけ この緑のかわいいの」風「豆苗」慎二「来るたび育ててね？」風「だって水につけとけば2・3回は伸びて食べられるんだもん」慎二「ヨッ 節約上手!!」風「ご機嫌だね 慎二 飲んできたの？」(例文1再掲)

このように、既に話し手と聞き手との間で成立している言語場でも、ほめあげ文の発話に際して「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」が発話されるのは「ほめあげるための言語場」を作り直すためだと考えられる。

なお、例文8出演者C「伝家の宝刀っ」は「よっ (ヨッ)／いよっ (イヨッ)」を伴わないで発話されている。それは既に出演者A「よっ」、出演者Bが「よっ 名人芸っ」と発話したことで、ほめあげる対象である上田晋也を聞き手とし、出演者A、B、C、Dを話し手とする「ほめあげるための言語場」ができあがっているため発話する必要がないからだと考えられる。

- 8 (酸っぱすぎて必ずむせると言われているボン酢の酸っぱさをMC上田晋也が確認して言う) 上田「あっ これは酸っぱいわ」(観客の笑い声)「えー 酸っぱいわ」有田哲平(上田の顔をしげしげ眺めて)「ほんと しわくちゃになってるもんね」上田「ずっと」(このやりとりを受けて出演者達が上田に向かって口々に言う) 出演者A「よ

っ」出演者 B「よっ 名人芸っ」出演者 C「伝家の宝刀っ」出演者 D「待ってましたっ」上田「これはもうほんとに酸っぱいほんとに酸っぱい」『しゃべくり』

4-3 ほめあげ文と単純な呼び掛け文の言語場

ほめあげ文の機能は呼び掛け文の機能の上に成り立っており、ほめあげ文が呼び掛け文の一種であることは既に述べたとおりである。

3 節で、ほめあげ文と呼び掛け文の言語場の特徴は同じであると述べたが、ほめあげ文の機能に由来する違いはある。ほめあげ文は、ほめあげる対象が話し手の目の届く範囲にいる言語場でしか発話されないが、単純な呼び掛け文は、呼び掛ける対象がその言語場にいるかどうかは定かではない場合でも「呼び掛けた対象が聞き手として言語場にいることを前提として発話され」（笹井 2015: 16-17）る。それは、ほめあげるという行為は、ほめあげる対象を目の前にして行うものであり（対象が背後にいたとしたら、それは行われぬ）、対象がいるかどうかは定かではない言語場では行われぬからである。一方、単純な呼び掛け文は、その主たる機能が呼び掛ける対象の注意喚起なので、例えば、人を探すときなどのように、その場にいるかどうかは分からなくても、応答があることを期待し発話されるのは自然なことだからである。

5. ほめあげ名詞の形式

3 節で述べたように、ほめあげ文とレッテル貼り文とは、形式的に共通する特徴をもっている。笹井（2017: 28）では、ほめあげ文は「レッテル貼り文と同じ形式を備えて」と述べているが、この記述は訂正しなければならない。正確に言えば、レッテル貼り文の^レ^ッ^テ^ルの^レ^ッ^テ^ルの形式と、「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+名詞（「！」、促音化または長音化）」という定型化のもとで運用されるほめあげ文の^ほ^め^あ^げ名詞の形式が同じである。

また、そののみならず構造も同じだと考えられる。以下に詳しく述べる。

5-1 ほめあげ名詞の構造と形式

レッテルは「性質、特徴、属性などを示す要素＋人や物を示す要素」という構造をもち、「レッテル全体が名詞一語であることが保たれている」という形式上の特徴をもつ（笹井 2017: 22）。

ほめあげ名詞も同様の構造上、形式上の特徴をもつ。例文 1-4 「ヨッ節約上手!!」「よっ 果報ものっ」「イヨッ!! 一流大学受験生!!」「よっ 幸せ者お」を例にすると、「節約上手」「果報もの」「一流大学受験生」「幸せ者」は、いずれも「(節約するのが上手な)(人)」「(果報な)(人)」「(一流大学を受験する)(人)」「(幸せな)(人)」のように「性質、特徴、属性などを示す要素＋人や物を示す要素」の構造をもっている。また、「節約上手な／人」「果報な／者」「一流大学の／受験生」「幸せな／者」のように二語以上に分かれたものは観察されず、全体が名詞一語に保たれている。このように、ほめあげ名詞は、構造も形式もレッテルと同じである。

また、レッテル貼り文は「レッテル部分が二語以上に分かれることを許さず、一語に収斂しようとして」おり、レッテルとして運用する名詞自体を話し手が造る場合においても「バカなキヨシ」「陰湿なはげ」ではなく「バカキヨシ」「陰湿はげ」のように「臨時的な一語の複合名詞」で造られる（笹井 2017: 22）。

ほめあげ文においても、ほめあげ名詞として運用する名詞自体を話し手が造っている用例が観察されるが、やはり、レッテル同様、臨時的な一語の複合名詞で造られている。そのような用例として例文 9-10 を挙げる。「和歌大将」「節約パパ」が示すように、ほめあげ名詞は「和歌が上手な大将」「節約上手なパパ」ではなく、臨時的な一語の複合名詞で造られている。

9 （上手に和歌を詠んだ人に向かって）電ボ「和歌の名人 和歌の達人

よっ 和歌大将〜」「もじゃお」

- 10 (唐沢寿明が EO 光ユーザーの夫婦にインタビューしている。節約しよう
と家計の無駄を探していたら通信費の無駄に気づいたので契約を EO 光
に変えた、と言う夫に対して) 唐沢寿明「よっ 節約パパっ」「EO
光」

5-2 「NP₁ の NP₂」の形式を取るほめあげ名詞

ほめあげ名詞の形式は、前節で述べたように、名詞一語であることが保
たれているのだが、「NP₁ の NP₂」の形式をとる例文 11-13「マフィアの
総大将」「和歌の名人 和歌の達人」「伝家の宝刀」のようなものが観察さ
れる。

- 11 (マフィアのボスに向かって) ジェイムズ「いよ——っ マフィア
の総大将——っ／ボスのクルーザー最高っスね！／へっへっへ」
『愛』21 巻 p.185
- 12 (上手に和歌を詠んだ人に向かって) 電ボ「和歌の名人 和歌の達人
よっ 和歌大将〜」(例文 9 再掲)
- 13 (酸っぱすぎて必ずむせると言われているボン酢の酸っぱさを MC 上田
晋也が確認して言う) 上田「あっ これは酸っぱいわ」(観客の笑い
声)「えー 酸っぱいわ」有田哲平(上田の顔をしげしげ眺めて)
「ほんと しわくちゃになってるもんね」上田「ずっと」(このや
りとりを受けて出演者達が上田に向かって口々に言う)出演者 A「よ
っ」出演者 B「よっ 名人芸っ」出演者 C「伝家の宝刀っ」(後
略)『しゃべくり』(例文 8 再掲)

レッテル貼り文にも同様に「一つのレッテルが二語からなり、「NP₁ の
NP₂」の形式」をもつ用例は観察され、それは以下の①②の場合である
(笹井 2017: 23-24)。

- ① NP₂ が「非飽和名詞」(西山佑司 2003)であるため NP₁ で意味を充足す
る必要がある場合

② NP₁にはそれだけでレッテルとして通用する名詞が観察され、NP₂にはレッテルを貼る対象の職業や地位を意味する名詞が観察される場合
 例文 11-13 の「マフィアの総大将」「和歌の名人 和歌の達人」「伝家の宝刀」は、「① NP₂ が非飽和名詞であるため NP₁ で意味を充足する必要がある場合」に該当する。例文 11-13 の NP₂「総大将」「名人」「達人」「宝刀」⁽¹²⁾だけでは、具体的に何の総大将なのか、何の名人なのか、何の達人なのか、どのような宝刀なのかを示されず意味的に充足しない。そのため、NP₂ だけでは話し手が対象に下した価値評価を十分に示せず、NP₁「マフィア」「和歌」「伝家」で意味を充足しているのである。このように、非飽和名詞がほめあげ名詞を構成する要素となる場合は、「NP₁ の NP₂」の形式をとるのである。

なお、「② NP₁にはそれだけでレッテルとして通用する名詞が観察され、NP₂にはレッテルを貼る対象の職業や地位を意味する名詞が観察される場合」に相当するほめあげ文は、「よっ！あやし上手のベビーシッター！」「よっ！解説上手の気象予報士！」⁽¹³⁾などがありうとは思われるが、実例としては観察されていない。

6. ほめあげ文の形式

6-1 ほめあげ文の形式とレッテル貼り文の形式

5-1 節で述べたようにほめあげ名詞とレッテルは構造も形式も同じである。しかし、文の形式は異なる。1 節で述べたように、ほめあげ文は「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「！」、促音化または長音化）」という定型化された形式をもつ。レッテル貼り文の形式的な類型は以下のとおりである。

I	A	{	[NP]	……「[ばか者]！」」「[サディスト]！」」「[ブタ]！」
		{	[NP ₁ の NP ₂]	{ a ……「[男の敵]！」 b ……「[役立たずのベビーシッター]！」
	B	{	この [NP]／あの [NP]	……「この [見栄っ張り]！」」「あの [変態野郎]！」
		{	NP ₀ の [NP]	……「ママの [ガミガミババー]！」
II	[NP ₁] の [NP _n]		……「[変態野郎]の [くそったれ]！」	

(I…レットルが一つのもの、II…複数のレットルが羅列されているもの、A…対象を明示する形式をもたないもの、B…対象を明示する形式をもつもの、a…NP₂が非飽和名詞で [NP₁ の NP₂] の形式をとるもの、b…NP₂が職業や地位を意味する名詞で [NP₁ の NP₂] の形式をとるもの) (笹井 2017: 31)

上記レットル貼り文の形式「I」の「A…対象を明示する形式をもたないもの」に関しては、ほめあげ文との形式上の違いは「よっ (ヨッ)/いよっ (イヨッ)」が付くか付かないかの違いである。

レットル貼り文の形式「I」の「B…対象を明示する形式をもつもの」に関しては、ほめあげ文にはほめあげる対象を明示する形式として「この」「あの」を含む「*よっ！この幸せ者！」のようなものは観察されない。しかし、ほめあげ文が呼び掛け文の一種であることから考えて、特定の個人を指定する「ほめあげる対象を示す呼称」を形式に含む「よっ！太郎の幸せ者！」「よっ！ママのお料理上手！」のような用例は可能であるように思われる。

レットル貼り文の形式「II…複数のレットルが羅列されているもの」に関しては、ほめあげ文には「*よっ！節約上手の幸せ者！」のような複数のほめあげ名詞が羅列されている形式は観察されない。ただし、5-1 節の例文9「和歌の名人 和歌の達人 よっ 和歌大将～」のような「の」を用いずにほめあげ名詞を羅列するものは観察され、レットル貼り文にもこれに相当する「たま子のハナベチャ さがり眉 かぼちゃ頭 べんぴっ

くいしんぼっ」(笹井 2017: 27 の例文 34) のような用例が観察される。

6-2 ソ系の指示詞とほめあげ文

前節で指摘したように、ほめあげ文には「この」「あの」を形式に含む用例が観察されない。ほめあげ文はほめあげる対象が聞き手として言語場にいることを前提として発話される。そのため、同様に呼び掛ける対象が聞き手として言語場にいることを前提として発話される単純な呼び掛け文に観察されないア・コ系の指示詞が(笹井 2015: 19、笹井 2017: 26-27)、ほめあげ文でも観察されないのは自然なことだと考えられる。

しかし、聞き手の存在を前提として使用されるソ系の指示詞(堀口和吉 1978: 33、吉本啓 1992: 111)は、単純な呼び掛け文には観察されるのだが(笹井 2015: 19、笹井 2017: 26-27)、ほめあげ文には観察されない。そこで、作例でほめあげ文の形式にソ系の指示詞が含まれるかどうかについて検討することとする。

単純な呼び掛け文に観察されるソ系の指示詞は「その」「そのの」である。「その」については使用制限がある(笹井 2017: 32)。「*その人!」「*その学生さん!」と呼び掛けることはできないが、「その青い服の人!」「そのスキンヘッドの学生さん!」のように「人」「学生さん」を限定すれば呼び掛け文として許容されるというものである。ほめあげ文「よっ! 幸せ者!」に「その」を付した「*よっ! その幸せ者!」は許容されない。これに上記の呼び掛け文と同様の操作をすると「よっ! その青い服の幸せ者!」「よっ! そのスキンヘッドの幸せ者!」となる。例えば、結婚したばかりの友人が青い服を着ていて(或いはスキンヘッドで)、その人に向けて発話する場合などに、文としては許容されるだろう。しかし、ほめあげ名詞が「幸せ者」一語ではなくなり、もはやほめあげ文としての形式から逸脱する。そして、その形式の逸脱にともなって、ほめあげる機能はありながらも注意を喚起する機能が強く感じられるようになる。したがって、このような文は典型的な単純な呼び掛け文と典型的なほめあげ文の中間的

な文と位置づけておきたい。

次に「そこの」が、ほめあげ文の形式に含まれるかどうかを検討する。「そこの人！」は呼び掛け文として機能する（笹井 2015: 18-19）。ほめあげ文「よっ！幸せ者！」に「そこの」を付すと「よっ！そこの幸せ者！」となり、文としては許容されるように思われる。やはり、ほめあげる機能はありながらも注意を喚起する機能がより強く感じられ、このような文についても典型的な単純な呼び掛け文と典型的なほめあげ文の中間的な文と位置づけられるだろう。

7. 定型化しているほめあげ文の形式

ほめあげ文は「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+名詞（「！」、促音化または長音化）」という定型化のもとで文として運用されている。この定型化された形式に支えられて、名詞が必ずしもほめあげ名詞でなくても、ほめあげ文として機能していることがうかがえる用例がある。

次の例文 14「よっ 気象予報士っ」は、職業（資格）を意味する名詞がそのままほめあげ文として運用されている用例である。名詞「気象予報士」は単に職業（資格）を意味し、その語義に一般的には価値評価を含まない。しかし、その資格をもたない者にはできない「気象を予報する」という能力をもつことや、気象予報士試験が難関であること、そして、メディアで華々しく活躍する気象予報士もいることなどから、気象予報士であることは一般的にはポジティブで良い価値評価をもつこともあるだろう。そのため「ほめあげる機能をもつ文」として定型化された形式で「よっ 気象予報士っ」と発話されると、その職業（資格）が言外にもつポジティブで良い価値評価が読み込まれ、ほめあげ文として機能するのだと考えられる。

- 14 （気象予報士の資格をもつ阿部亮平が曲の間奏でそれを生かした台詞を言う）阿部「明日のあなたの天気は晴れです」佐久間大介「よっ

気象予報士っ『少クラ』

また、「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」は、4-2 節で述べたように、「話し手（主者）が対者を聞き手として言語場に引き入れようとする」（大鹿 1988:98）機能をもつが、例文 15-16「いよっ」はそれだけでなく、うまいこと言った松本人志や、得意のランバダをまさに踊ろうとする小倉瞳を持ち上げ、賞賛する意図が込められている。

- 15 （有名人のセクハラ報道に対するコメントを求められて）松本人志「（前略）まずその人の顔色を気にしないといけなかった」小沢一敬「いよっ」（出演者達の笑い声）東野幸治（小沢に向けて）「あまーい」に対抗して「いよっ」太鼓持ちちゃん（出演者達の笑い声）『ワイドナ』

- 16 （小倉瞳がランバダを踊るために店内の広いスペースに移動し、まさに踊ろうとスタンバイしている。その瞳に向けて）高木渉「いよっ」（高木と友永は興奮した様子で拍手している）『半分』

このような単独で運用される「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」は、単に注意を喚起するだけでなく賞賛をも表すのである。4-2 節で、ほめあげ文において「よう」などの一般的な呼掛詞は用いられず、「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」だけが観察されることを指摘したが、同様に、単独で運用され単に注意を喚起するだけでなく賞賛する意図が込められた例文 15-16 のような用例でも、「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」だけが観察され、「よう」のような他の呼掛詞は観察されない。

上述の例文 15-16「いよっ」のような用例が観察されるのは、ほめあげ文において「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」が用いられることによるだろう。

歌舞伎などの舞台芸術において、劇中の見せ場で観客が役者に「よっ！ 播磨屋！」のように屋号を呼び掛ける慣習がある。笹井（2015）において、このような文について「いよっ ひらきや！」という用例で考察した。

- 17 カンプツさん「うん。ほくこれからも干してますますおいしくなる物をいっぱい干していくよ。」電ボ「いよっ ひらきや!」カンプツさん「ははっ」「カンプツさんに干せないもの」(笹井 2015: 25 の例文 32 に相当)

この用例について、「情意の表出を敢えてやって見せていると考えられる。情意表出の機能と注意喚起の機能とを同時に働かせることでしか成り立たない表現」、「さすがその屋号に値するだけの技術・芸術である」という賞賛の気持ちの情意表出」(p.26) などの指摘をした。「ひらきや」は三代続乾物屋の屋号であり、まさに「播磨屋」がその屋号を名乗る家の役者を指すように、カンプツさんを指定する固有名詞として一般的に通用しているものである。したがって、名詞「ひらきや」自体の意味に一般的には価値評価は含まれない。にもかかわらず、上述のような賞賛の気持ちが感じられるのは、例文 14「よっ 気象予報士っ」同様に、その屋号が言外にもつ「賞賛に値するブランドとしての意味合い」(p.26) を、ほめあげ文として定型化された形式の支えにより読み込むからである。

8. ほめあげ文の形式を借りた親愛表現

以下の例文 18-19「よっ 足くさメタボっ エロおやじーい」「よっ へっぼこお」のように、ポジティブで良い価値評価ではない名詞「足くさメタボ」「エロおやじ」「へっぼこ」が、ほめあげ文の形式で運用されている用例が観察される。

これらはネガティブな価値評価を敢えて聞き手に聞かせているが、決して罵っているのではない。米川明彦(1999: 32-33)は、現代において「卑罵表現」には「親愛表出機能がよく見られる」と指摘し、「親愛表出機能」とは「親しい者に卑罵表現を使って親愛感を表すこと」で、「親しい人に対して卑罵表現を使うことによって相手に親愛感・親密感を表し、またそれを確認している。すなわち、卑罵表現は親しさのバロメーターとなって

いる」と述べる。

18 佐藤マサオ「ほんとにしんちゃんのパパなの」野原ひろし（歌舞伎の見得を切るような言い方と仕草で）「おーお 野原ひろし 秋田生まれの35才い 二人の子持ちで係長お」野原しんのすけ「よっ 足くさメタボっ エロおやじーい」野原ひろし「させんなっ」『しんちゃん』

19 （事件の捜査があまり進展しないためそれまでとは異なる視点を提示したが、解決の糸口にはならなかったので）久部六郎「警察がいくら捜しても犯人の姿が見えないってことは何か間違ってたのかなあっと思って 気のせいでしたね すいません」東海林タ子「よっへっぽこお」『アンナチュラル』

例文18-19の用例も、息子から父に向けたものであったり、職場の仲の良い年下の同僚に向けたものであったり、親しい人同士のコミュニケーションのなかで行われている。ほめあげ文の形式でネガティブな価値評価を取って聞かせることが、親愛の情の表現であったり、提示した視点が有効ではなかったことへの愛情のこもった慰めや励ましの表現となっていたりするものである。

このような名詞が表す価値評価自体はネガティブなものだが、これらはレッテル貼り文ではない。なぜなら、ほめあげ文の形式で運用されており、「親愛感・親密感」のもとで、それを聞かせるために発話されているからである。

逆に、例文20「しあわせもん！」は、ポジティブで良い価値評価を表す名詞が文として運用されているが、ほめあげ文としての定型に支えられてはおらず、レッテル貼り文だと考えられる。

20 （女性4人の会話）陶子「（前略）今のワタシたちを救えるのは生活の灰汁よ！しがらみよ！それっきゃないワ!!」真朱「それわかるワ」たまこ・ミチコ「あー もう！よくゆーよ！」ミチコ「この！⁽¹⁴⁾しあわせもん！」真朱「どーしてヨ」『ファ』3巻 p.295

この女性4人の中で、真朱は恵まれた環境にあるが本人にその自覚はなく、他の女性達同様に恵まれない環境にあると思込んでいる。そのため、悲惨な現実についての会話内容に同調した真朱に対して、いらついたミチコが下した価値評価が「しあわせもん」である。「しあわせもん」という価値評価は言葉どおりであればポジティブで良い価値評価だが、実際は「幸せなのにその自覚がない」「幸せなのに不幸ぶる」のようなネガティブな価値評価である。無自覚な真朱へのいらだちや嫌悪などの情意が表出しているのである。このように、一見ポジティブで良い価値評価を表す名詞が文を構成していても、ほめあげ文とはならずレッテル貼り文になる用例も、特殊な例ではあるが観察される。

9. おわりに

「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「!」、促音化または長音化）」という定型化のもとで運用されている「よっ！幸せ者！」のような文を「ほめあげ文」と位置づけた。ほめあげ文とレッテル貼り文は、ほめあげ名詞とレッテルが同じ構造と形式をもつという意味において共通し、あたかも同じ機能をもつかのようであるが、ほめあげ文は、レッテル貼り文のような表出文ではなく呼び掛け文の一種であること、しかし、単純な呼び掛け文とも異なる固有の「ほめあげる機能」をもつことなどを指摘した。

注

- (1) 本稿において漫画から例文を掲出する際、吹出に書かれた台詞を「」で括る。同一人物の一連の台詞が複数の吹出に分かれて表記されている場合は「」内をスラッシュで区切って示す。明らかに一文だと分かる文が途中で改行され、一つの吹出内で複数の行に渡って表記されている場合は、原文の改行を反映せず一続きに例文を表記する。原文の文末に句点や感嘆符、疑問符などの区切り符号がない場合、全角のスペースで次の文との区切りを示す。原文のスペースは□で示す。心内語は、心内語と断ったうえで（ ）内に示す。ハートマークのような特殊な記号はそれを反映しない。また、テレビ

- 番組、映画、CMなどの映像作品から例文を掲出する際、同一人物の一連の発話を「」で括って示し、全角のスペースで次の文との区切りを示す。台詞（発言）の長音や促音などは聞き取ったとおりに表記する。出演者名や役名を表記するにあたって敬称は省略する。
- (2) 笹井香（2017:32）でも指摘しているが、例文2「よっ／にくいよ このっ／果報ものっ！」はスラッシュで示している通り、「よっ」「にくいよ このっ」「果報ものっ！」のように、3つの吹出に分かれて表記されている。つまり、「このっ」は「にくいよ このっ」であり、「果報ものっ！」にかかっていない。したがって、例文2の「このっ」は、もはや指示詞ではなく感動詞なのだと考えられる。
 - (3) 「呼掛詞」という用語は、森重敏（1975）に依拠する。
 - (4) 「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「！」、促音化または長音化）」の 名詞 は、話し手が対象に下したポジティブで良い価値評価を表している。書きことばであれば「！」が付され、話しことばであれば促音化か長音化が見られる。なお、「！」には「!!」も観察されるが、「！」に代表させて表記する。
 - (5) 「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）+ 名詞（「！」、促音化または長音化）」という定型化のもとで運用されている「ヨッ 節約上手!!」のような文は、叙述文の省略ではない。山田孝雄（1936）の述べる「完備句」であり、感動文（笹井香 2005、2006）や呼び掛け文（笹井香 2015）、レッテル貼り文（笹井 2017）にならぶ体言を骨子とする「喚體」の文として扱いたい。
 - (6)(7) 笹井（2017:28）において、ほめあげ文が「レッテル貼り文と同じ形式を備えており」と述べたが、ほめあげ文の形式とレッテル貼り文の形式とに共通する特徴はあるが「同じ形式」ではない。正確には、ほめあげ文のほめあげ名詞とレッテル貼り文のレッテルの形式が同じである。ここで述べたことも含めて、形式については5節と6節で詳しく述べる。
 - (8) 「例文 35-39 下線部のような文」とは、本稿の例文2「よっ 果報ものっ」、例文3「イヨッ!! 一流大学受験生!!」、例文4「よっ 幸せ者お」、例文11「いよ——っ マフィアの総大将——っ」、例文12「和歌の名人 和歌の達人 よっ 和歌大将～」のことである。
 - (9) レッテル貼り文がレッテルを貼る対象が存在する言語場で発話されても、対象は聞き手として認定されていない（笹井 2017:27）。
 - (10) 「対象を聞き手として言語場に引き入れようとする」とは大鹿薫久（1988）の用語である。この節の後半で詳しく引用する。
 - (11) 単純な呼び掛け文は「佐藤さん!」「そこの人!」のように特定の個人を指定して注意を喚起するが、ほめあげ文はほめあげる対象が眼前にいるため、

特定の個人を指定せずに「よっ（ヨッ）／いよっ（イヨッ）」で注意を喚起すると考えられる。

- (12) NP₂ が「宝刀」の場合、文脈や前後の談話の前提からどのような宝刀なのか理解できる場合は NP₁ がなくても意味が充足されるだろう。
- (13) レッテル貼り文の②の用例は「役立たずのベビーシッター！」のようなもので、「NP₁ の NP₂」の形式をとることで、NP₂ が意味する職業、地位の一般的なイメージから外れているという価値評価をも含意し「ベビーシッターなのに役立たず」という価値評価を表す（笹井 2017: 24）。したがって、ほめあげ文の作例に際して NP₂ が示す職業の一般的なイメージに合致し、その職業に望ましい属性であろう「あやし上手」「解説上手」を NP₁ に用いた。
- (14) 「この！しあわせもん！」の「この！」は指示詞ではなく明らかに感動詞である。

用例出典

『愛』…青池保子『エロイカより愛をこめて』秋田書店／『ファ』…岡野玲子『ファンシィダンス』小学館文庫／『凧』…コナリミサト『凧のお暇』秋田書店／『公開』…陽東太郎『遺書、公開。』スクウェア・エニックス／『極』…森本梢子『ごくせん』集英社 YOUCOMICS／『ママ』…森本梢子『私がママよ決定版』集英社『大賞』…関西テレビ『平成 20 年間 1 億 3000 万人のがんばった大賞永久保存版！！』2008 年 1 月 7 日放送／『しんちゃん』…東宝『映画クレヨンしんちゃん襲来！！宇宙人シリリ』劇場公開日 2017 年 4 月 15 日／『しゃべくり』…日本テレビ『しゃべくり 007』2018 年 2 月 26 日放送／『ワイドナ』…フジテレビ『ワイドナショー』2018 年 8 月 12 日放送／『EO 光』…EO 光 CM「節約パパ編」2009 年 9 月放送／『もじゃお』…NHK『NHK アニメワールド おじゃる丸』第 9 シリーズ第 60 話「もじゃお」初回放送 2006 年 10 月 23 日／「カンブツさんに干せないもの」…NHK『NHK アニメワールド おじゃる丸』第 10 シリーズ第 83 話「カンブツさんに干せないもの」初回放送 2007 年 11 月 21 日／『半分』…NHK『連続テレビ小説 半分、青い。』123 回「生きたい！」2018 年 8 月 22 日放送／『少クラ』…NHKBS プレミアム『ザ少年倶楽部』2016 年 6 月 8 日放送／『アンナチュラル』…TBS『金曜ドラマ アンナチュラル』第 9 話「敵の姿」2018 年 3 月 9 日放送

引用文献

- 大鹿薫久（1988）「感動文の構造——句と文についての把握——」『ことばとことのは』第 5 集 和泉書院
- 笹井香（2005）「現代語の感動喚起句の構造と形式」『日本文藝研究』第 57 巻 2

- 号 関西学院大学
- 笹井香（2006）「現代語の感動文の構造——「なんと」型感動文の構造をめぐって——」『日本語の研究』第2巻1号 日本語学会
- 笹井香（2015）「呼び掛け文」『日本文藝研究』第66号2巻 関西学院大学
- 笹井香（2017）「レットテル貼り文という文」『日本語の研究』第13巻4号 日本語学会
- 西山佑司（2003）『日本語名詞句の意味論と語用論——指示的名詞句と非指示的名詞句——』ひつじ書房
- 浜田麻里（1988）「言語行動としての罵り」『待兼山論叢日本学篇』第22号 大阪大学
- 堀口和吉（1978）「指示詞の表現性」『日本語・日本文化』第8号 大阪外国語大学
- 森重敏（1975）『日本文法通論』風間書房
- 山田孝雄（1936）『日本文法學概論』寶文館
- 吉本啓（1992）「日本語の指示詞コソアの体系」『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房
- 米川明彦（1999）「卑罵表現も変わりゆく」『月刊言語』28 大修館書店

（ささい かおり・関西学院大学非常勤講師）